

令和元年度
事業報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

東京都豊島区高松三丁目6番7号

学校法人 豊南学園

1. 法人の概要

(1) 建学の理念・精神

本学校法人豊南学園は、秋田県出身の西宮藤朝によって昭和 17 年に財団法人豊南学園として設立、旧実業学校令による豊南商業学校を設置したことに始まり、以来 60 有余年にわたり「自主独立の建学の精神を発揚し社会に寄与できる人材の育成」を目標としてきた教育機関であります。

西宮藤朝は、大正 3 年早稲田大学文学部英文科を卒業後、早稲田文学社に入社し、島村抱月先生より 5 名の若手編集同人のひとりとして委嘱され、主に詩歌部門を担当しました。同 13 年より早稲田大学、同 14 年より立正大学講師として教壇に立ち、哲学・英語・フランス語の講座を担当し、その間に、詩歌、芸術、倫理、哲学等に関する数々の論文・著書を出版しました。

その頃から、少年並びに青年教育の在り方についての抱負と、国民性の陶冶は大学以前において行われるべきことを主張しておりました。この『青少年に対する深い教育愛』という一連の情熱は、フランスの哲学者・スピノザの教育論に根ざしています。すなわち「人間の持つ合理性の能力が、人間の生物的法則の活動を調整する。この合理性の能力を養うところに教育の意義がある」というものであり、

これが、創立時に作成した教育方針、

- 一. 『責任感の強い自主独立の精神を涵養する』
- 二. 『明朗闊達な民主的人物を作ろうとする』
- 三. 『自由放逸の自然性を合理的・道徳的に向上させる』

に示されています。

これらを踏まえ、個々人の持てる勝れた個性の伸長を図る事の重要性を深慮され、「自主独立」の精神の涵養を校是としました。即ち「自分の足で歩ける人」「自分の頭で考えられる人になれ」といった、一人一人の人造りの肝要を説き、建学の精神としました。

また、昭和 29 年には、「次代を担う若い女性たちを、良き社会人、良き家庭人に育てる」ことを目的にした女子部を開設し、教育活動の本格的実践を目指しました。

この精神、西宮藤朝の遺志を受け継ぎ、「人間形成」を一步進める形で、前理事長・武田昭二が、昭和 58 年に信州豊南女子短期大学（現：信州豊南短期大学）を創設しました。初代学長・安津素彦先生を迎えて、建学の精神の涵養につとめながら高い知性と豊かな情操を培い郷土の文化を理解し、多様化する国際化社会にも対応の出来る勝れた人間像の育成を期してきました。

社会的・国際的混乱の続く現代においてこそ、このような建学の精神に沿い、学生・生徒そして保護者の信託に応える取り組みが求められているものと考えております。

(2) 沿革

昭和 17 年に西宮藤朝が東京都豊島区に財団法人豊南学園を創立し、旧実業学校令による豊南商業学校を設立しました。

その後、昭和 26 年学校法人に組織変更し、幼稚園、高等学校を設置、昭和 58 年学園創立 40 周年

を機に創立者が生前から強い情熱を抱懐されていた大学設立の夢を信州豊南女子短期大学設置というかたちで結実するに至りました。学園創立当初からの「自主独立の建学の精神を発揚し、社会に寄与できる人間の育成」を教育理念とし、建学の精神である「自主独立」を具現化すべく、「人間教育」を教学の基本に置き教育にあたってきました。単に専門的学芸の教授研究、真理探究の場を提供するにとどまらず、情操、体育の面を含めた総合的な「人間形成」を教学の基本とし、地域社会の発展に尽力してきました。

昭和 17 年	財団法人豊南学園創立、旧実業学校令による豊南商業学校設置
昭和 19 年	豊南工業高校併置
昭和 23 年	豊南商業学校・豊南工業学校を豊南高等学校（普通課程）と改組改称
昭和 26 年	財団法人豊南学園を学校法人豊南学園に組織変更
昭和 29 年	豊南高等学校女子部新設
昭和 30 年	豊南幼稚園併置
昭和 37 年	豊南高等学校に商業課程併置
昭和 54 年	長野県辰野町に豊南学園教育研修施設として「王城山荘」を開設（62 年閉鎖）
昭和 56 年	創立 40 周年記念事業の一環として「信州豊南女子短期大学」設置を文部省に申請
昭和 58 年	信州豊南女子短期大学（国文科・英語科）開学
平成 12 年	国文科・英語科を「言語コミュニケーション学科」に改組転換 信州豊南短期大学に名称変更（男女共学）
平成 16 年	豊南高等学校男女共学に移行開始
平成 19 年	豊南高等学校商業科募集停止
平成 20 年	幼児教育学科設置（言語コミュニケーション学科の定員変更）

（3）設置学校等

信州豊南短期大学	長野県上伊那郡辰野町中山 7 2	学 長 森本 健一
豊南高等学校	東京都豊島区高松 3 丁目 6 番 7 号	学校長 守随 憲道
豊南幼稚園	東京都豊島区高松 3 丁目 6 番 7 号	園 長 西 照子

（4）各学校在籍者数（各年度の 5 月 1 日現在）

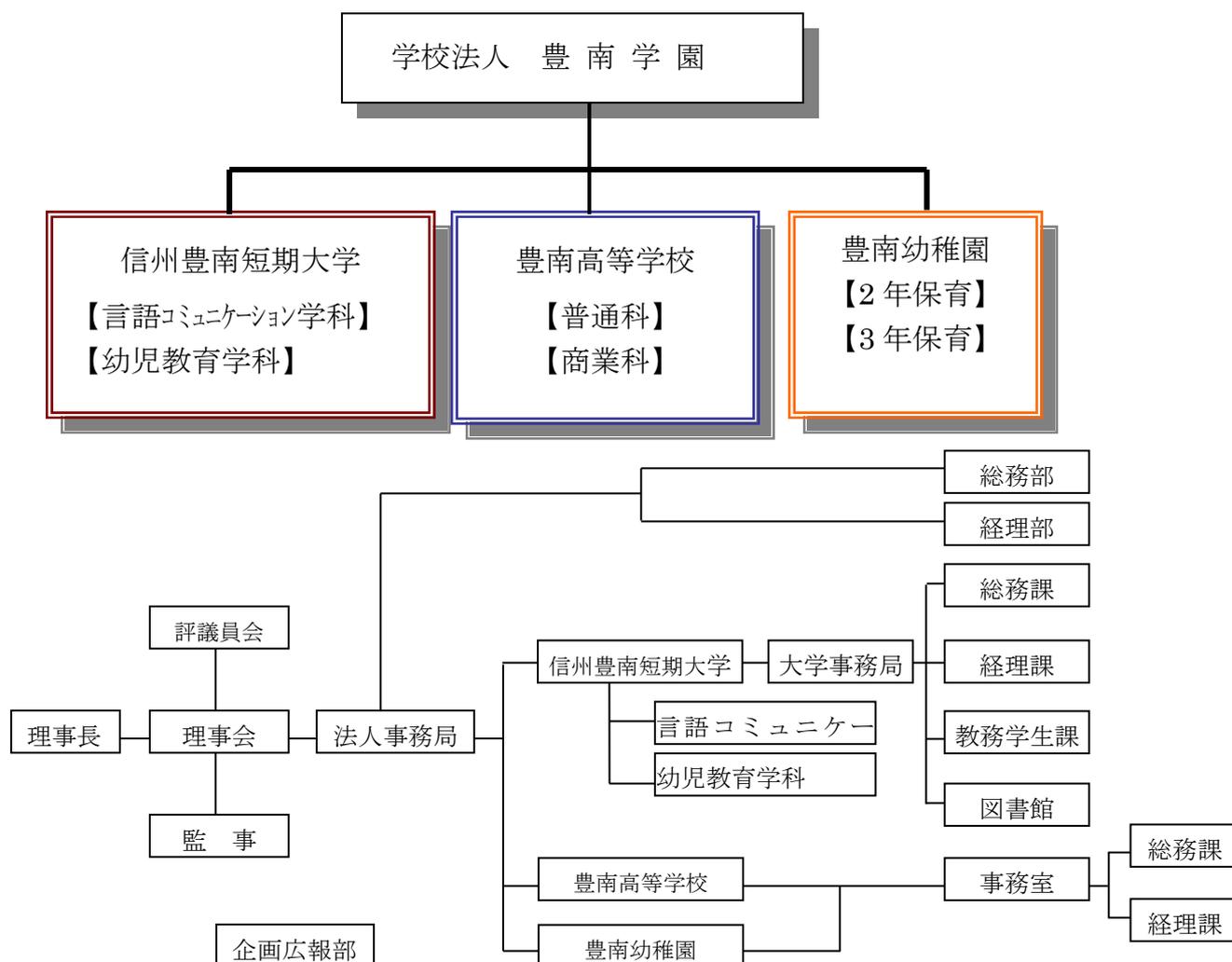
区分	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	令和 2 年度
短大学生数	265 名	258 名	255 名	266 名	222 名	244 名	261 名	223 名
高校生徒数	639 名	689 名	714 名	924 名	925 名	936 名	838 名	899 名
幼稚園園児数	75 名	79 名	74 名	75 名	77 名	86 名	77 名	66 名
計	979 名	1,026 名	1,043 名	1,265 名	1,224 名	1,266 名	1,176 名	1,188 名

(5) 役員（理事・監事）に関する事項

役員及び教職員に関する情報（教職員は専任のみ・兼務含む）令和2年5月1日現在

役員			本部	信州豊南短期大学	豊南高等学校	豊南幼稚園
理事	7名	教員	0名	16名	40名	5名
監事	2名	職員	3名	9名	13名	4名
評議員	15名					

(6) 組織図



II. 事業の概要

信州豊南短期大学

I 当該年度の主な事業の概要および進捗状況

1. 事業の主な目的・計画

(1) 教育改革

①学習成果と3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマ

ポリシー)の点検見直しによる教育内容改革を推進する。

- ②ルーブリック等の採用、GPA制度の見直しを行い、各学科の教育目標の達成、学習成果の獲得に向けて厳格な成績評価の実施を推進する。
- ③幼児教育学科において新法対応カリキュラムが本年度からスタートすることから、その趣旨等を十分確認、共有したうえで教育にあたる。

(2) 学生支援

- ①進路指導の強化を図る。
- ②「教育改革 1.の②」の実施にともないGPAを用いた学生指導を導入する。
- ③国による奨学金制度等の改正に伴う対応をはかる。

(3) 研究推進

- ①教員の教育能力の増進を目的に積極的にFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動に取り組む

(4) 運営管理(学生募集含む)および設備投資

- ①教職員のレベルアップを目的にSD(スタッフ・ディベロップメント)活動を積極的に推進する
- ②ホームページ等により教育活動について情報発信する
- ③入学試験の方法の見直しを図り、広報活動全体の点検を実施し、入学者の定員確保を目指す。
- ④校舎の補修・改修を実施する
- ⑤さまざまな角度から地域連携活動を強化する。

2、進捗状況

(1) 教育改革

- ①教育活動の充実に向け3つの基本方針(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)を教務委員会、両学科科会及び総務会で点検を行い、令和2年度学生便覧において「カリキュラムとディプロマポリシーとの関係」として一覧表を掲載し、各授業科目を通して身に着けるべき能力(学習成果)を示した。さらにこれらの協議をもとに入学時から卒業までの学期ごとの目標や身に着けるべき能力、各授業科目の関係性を一覧で示し、今どの位置のどの科目を学びどのような能力を身に着けようとしているのか、次にどのような科目が続くのかといったことをカリキュラムマップとしてわかりやすく示すことができた。
- ②ルーブリックについて前年度に引き続き採用し、各授業科目で見直しをお願いした。GPA制度に基づく学生指導について検討確認し、令和2年度学生便覧に掲載し、その内容に従って指導を行うことを確認した。
- ③教職課程再課程認定および保育士養成課程の新カリキュラムを平成31年度入学者から実施した。2年生は旧カリキュラムと新旧混在した状況ではあるが、新旧それぞれの趣旨等をふまえて教育に当たることを学科内で確認し実践した。
- ④FD研修の実施(FD委員会及び教務委員会)
授業参観、授業評価アンケート、シラバス改善に向けた学習会を行った。その結果シラバス作成の手引きの改訂を行い、令和2年度のシラバスに反映させた。
- ⑤SD研修会の実施
教授会終了後にSD研修会を実施。研究者の倫理等、履修規程およびGPAに関する学習会、入

試に関するデータ等の分析等の内容で6回の研修会を行った。

⑥第三者評価

平成29年10月に短期大学基準協会の第三者評価を受け「合」となっているが、次回の第三者評価に向けて、自己点検評価を行い特にシラバス及び成績評価の部分について平成31年度の改定に活かした。

(2) 学生支援

- ①進路指導の内容等について進路指導委員会において検討を行い、計画にのっとり進路指導ガイダンスを実施。なかなか動くことのできない学生に対する指導にも力を入れ、個別指導を実施した。
- ②GPAを用いた学生指導を導入したが、まだ対応が十分ではない部分があったことから、両学科とも再度確認し、一定の基準に基づく指導を行うことを新学期早々のガイダンスにおいて学生にも説明した。
- ③1年生に対し国による修学支援制度の周知を図り、該当者は本年度限りの在学予約採用の手続きを行うよう指導した。また、入試説明会等において保護者に対し、修学支援制度について詳しく説明するとともに、入学前の2月に入学予定者の保護者を対象に再度修学支援制度についての説明を行うとともに、入学後の学習との関係についても文書を配布するなど修学支援制度が有効に活用されるよう指導を行った。

(3) 研究推進

- ①教員の教育能力の増進を目的にFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動に取り組んだが、十分とは言えない状況であり、引き続き積極的に取り組むこととしたい。

(4) 運営管理(学生募集含む)および設備投資

- ①教職員のレベルアップを目的にSD(スタッフ・ディベロップメント)活動を計画的に行ったが、十分ではなく関心の薄い分野もあり、さらなる必要性をアピールしていくこととする。
- ②ホームページ等により教育活動についての情報発信を行ったが、十分とは言えない。を次年度も引き続き情報発信に力を入れたい。
- ③入試の方法は次年度大幅に改定されることもあり今回は見送る形になった。広報活動全体としては例年通りの計画はでき、接触者は多かったが受験者が減少した。特に経済的支援奨学生入試の受験者が大きく減少した。新たな修学支援制度が導入され、魅力が半減した形になった。検討を要する。
- ④校舎の補修は進まなかったが、Wifi等のあらたな設備を導入した。
- ⑤主に教員が市町村の各種の委員やアドバイザー等を務めるなど地域連携活動は広がったが本学が主体性を持った活動は減少した。この点を改善していきたいと考えている。

II 教育研究の概要

(1) 教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等名	学科名	備考
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	
	幼児教育学科	

(2) 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

大学等名	学科名	教員数
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	8名
	幼児教育学科	9名
【教員の保有学位または職務上の実績等】 博士号 1名、修士 13名 令和元年度研究紀要第37号発刊 37号研究紀要論文執筆者 5名		

(3) 学生に関する情報

信州豊南短期大学	【入学に関する基本的な方針】 言語コミュニケーション学科、幼児教育学科ともアドミッションポリシーを定め、それにもとづき学生募集を実施。求める学生像との関係、本学で学ぶにふさわしい能力と意欲を備えているかについて、試験種別ごとに確認し入学させるものとします。 (令和2年5月1日現在) ※進学者数には準備中の者等を含む					
	学科名	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数
	言語コミュニケーション学科	45	200	133	66	1
	幼児教育学科	51	200	90	46	0
	【卒業後の進路・就職状況等】 ・言語コミュニケーション学科 令和2年3月末の就職率は97%。 主な就職先は辰野町役場、木曾広域連合、アルプス中央信用金庫、デリシア、TPR、ホテルブエナビスタ、JA長野、その他。 ・幼児教育学科 令和2年3月末の就職率は100%。 主な就職先は、長野市職員(保育士)、松本市職員(保育士)、諏訪市職員(保育士)、伊那市職員(保育士)、下諏訪町職員(保育士)、野沢保育園、信学会幼稚園、長野県社会福祉事業団、つつじが丘学園、					

(4) 教育課程に関する情報

言語コミュニケーション学科教育課程

令和2年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択必修	選択	専任	兼任	兼任	
教養科目	日本語表現Ⅰ		○		2			○			} 1単位 選択必修
	日本語表現Ⅱ		○		2			○			
	日本語表現Ⅲ(就職対策)		○		1			○			
	スタディスキル		○		1			○			
	コミュニケーションスキルⅠ		○			1				○	
	コミュニケーションスキルⅡ		○			1				○	
	Basic EnglishⅠ		○			2		○			
	Basic EnglishⅡ		○			2		○			
	情報基礎演習		○		1			○			
	Excel演習		○			1		○			
	情報と社会		○			1		○			
	キャリアデザイン		○			1				○	
ゼミナール	コミュニケーションゼミ		○		1			○			
	課題探究ゼミ		○		1			○			
	専門ゼミ		○		2			○			
専門プログラム	心理学の基礎Ⅰ	○					2		○		
	心理学の基礎Ⅱ	○					2		○		
	発達心理学Ⅰ	○					2			○	
	発達心理学Ⅱ	○					2			○	
	臨床心理学Ⅰ	○					2			○	
	臨床心理学Ⅱ	○					2			○	
	医療事務Ⅰ	○				2				○	
	医療事務Ⅱ	○				2				○	
	医療事務Ⅲ	○				2				○	
	手話Ⅰ		○			1				○	
	手話Ⅱ		○			1				○	
	生命と倫理	○					2		○		
	社会福祉論	○					2		○		
	児童福祉論	○					2		○		
	健康スポーツ			○			1			○	
生涯スポーツⅠ			○			1			○		
生涯スポーツⅡ			○			1			○		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
専門プログラム	人と文学		○				1	○			
	現代思想	○					2	○			
	古典文学の流れ	○					2				○
	近代文学の流れ	○					2	○			
	源氏物語	○					2				○
	幻想小説	○					2	○			
	短編小説を読む	○					2	○			
	書道 I		○				1				○
	書道 II		○				1				○
	ペン習字		○				1				○
	朗読演習 I		○				1	○			
	朗読演習 II		○				1	○			
	児童文学論	○					2				○
	詩・短歌を作る		○				1	○			
	映画の表現と方法	○					2	○			
	サブカルチャー研究 I	○					2				○
	サブカルチャー研究 II	○					2				○
	マンガ研究	○					2				○
	アニメ論	○					2				○
	人間と言葉		○				1	○			
	英語学概論	○					4	○			
	観光英語		○				1				○
	English Workshop I		○				1				○
	English Workshop II		○				1				○
	英語で話そう(Oral English I)		○				1				○
	Oral English II		○				1				○
	Oral English III		○				1				○
	Oral English IV		○				1				○
	Reading I		○				1	○			
	Reading II		○				1	○			
英語発音法	○					2				○	
TOEIC・英検対策 I		○				1	○				
TOEIC・英検対策 II		○				1	○				
TOEIC・英検対策 III		○				1	○				

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
専門プログラム	TOEIC・英検対策Ⅳ		○				1	○			
	異文化コミュニケーション(異文化理解)	○					2	○			
	ITパスポート演習Ⅰ		○				1	○			
	ITパスポート演習Ⅱ		○				1	○			
	データベース演習		○				1	○			
	コンピュータグラフィック		○				1	○			
	Webデザイン検定対策Ⅰ		○				1	○			
	Webデザイン検定対策Ⅱ		○				1	○			
	地球環境論	○					2		○		
	環境問題演習		○				1		○		
	自然体験活動		○				1		○		
	伝統文化演習		○				1		○		
	ビジネス基礎演習Ⅰ(ビジネスマナー)		○				1				○
	ビジネス基礎演習Ⅱ(実務)		○				1				○
	公務員対策Ⅰ		○				1				○
	公務員対策Ⅱ		○				1				○
	公務員対策Ⅲ		○				1				○
	SPI対策Ⅰ		○				1				○
	SPI対策Ⅱ		○				1				○
	漢字検定演習Ⅰ						2				
	漢字検定演習Ⅱ						2				
	日本語検定演習Ⅰ						2				
	日本語検定演習Ⅱ						2				
	TOEIC演習Ⅰ						2				
	TOEIC演習Ⅱ						2				
	TOEIC演習Ⅲ						2				
	英語検定演習Ⅰ						2				
	英語検定演習Ⅱ						2				

} 認定単位

図書館司書養成課程

令和2年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
図書館司書資格	生涯学習概論	○			2					○	
	図書館概論	○			2			○			
	図書館制度・経営論	○			2			○			
	図書館情報技術論	○			2				○		
	図書館サービス概論	○			2			○			
	情報サービス概論	○			2					○	
	児童サービス論	○			2					○	
	情報サービス演習Ⅰ		○		1				○		
	情報サービス演習Ⅱ		○		1				○		
	図書館情報資源概論	○			2					○	
	情報資源組織論	○			2			○			
	情報資源組織演習Ⅰ		○		1			○			
	情報資源組織演習Ⅱ		○		1			○			
	図書館サービス特論	○				1					○
	図書館情報資源特論	○				1					○
	図書館総合演習		○			1		○			
図書館実習			○		1		○				

学校図書館司書養成課程

令和2年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
図書館司書資格	学校図書館概論	○			2			○			
	図書館情報技術論	○			2			○			
	図書館情報資源概論	○			2					○	
	情報資源組織論	○			2			○			
	情報資源組織演習Ⅰ		○		1			○			
	情報資源組織演習Ⅱ		○		1			○			
	学校図書館サービス論	○			2			○			
	情報サービス論	○			2			○			
	情報サービス演習Ⅱ		○		1			○			
	情報サービス演習Ⅰ		○		1			○			
	学校教育概論	○			2				○		
	学習指導と学校図書館	○			2			○			
読書と豊かな人間性	○			2			○				

幼児教育学科教育課程

令和2年5月1日現在

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
基礎科目	基礎ゼミ		○		1			○			
	課題探求ゼミ		○		1			○			
	社会人基礎力演習		○		1					○	
	日本語表現演習		○		1			○			
	情報基礎演習Ⅰ		○		1				○		
	情報基礎演習Ⅱ		○		1				○		
	保健体育	○				2		○			
	生涯スポーツ		○		1			○			
	日本国憲法	○				2					○
	Oral EnglishⅠ		○		1						○
	Oral EnglishⅡ		○			1					○
	環境問題演習		○			1		○			
専門教育科目	保育者論	○			2			○			
	教育原理	○			2			○			
	保育原理	○			2			○			
	教育社会学	○					2				○
	教育・保育の心理学	○			2			○			
	特別支援教育	○			2			○			
	教育・保育課程論	○			2			○			
	幼児と健康		○		1			○			
	幼児と人間関係		○		1			○			
	幼児と環境		○		1			○			
	幼児と言葉		○		1			○			
	幼児と表現(音楽)		○		1			○			
	幼児と表現(造形)		○		1			○			
	保育内容総論		○		1			○			
	保育内容の指導法(健康)		○		1			○			
	保育内容の指導法(人間関係)		○		1			○			
	保育内容の指導法(環境)		○		1			○			
	保育内容の指導法(言葉)		○		1			○			
保育内容の指導法(表現・音楽)		○		2						○	
保育内容の指導法(表現・造形)		○		1			○				
乳児保育Ⅰ	○			2			○				
乳児保育Ⅱ		○		1						○	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任	
専門教育科目	教育方法論	○					2	○			
	子どもの理解と援助		○				1	○			
	教育相談	○					2	○			
	教育実習			○			5	○			
	教職実践演習		○				2	○			
	保育の表現技術(音楽Ⅰ)		○		1			○			
	保育の表現技術(音楽Ⅱ)		○		1			○			
	保育実践演習Ⅰ		○		1			○			
	保育実践演習Ⅱ		○		1			○			
	保育実習指導ⅠA		○				1	○			
	保育実習指導ⅠB		○				1	○			
	保育実習ⅠA(保育所)			○			2	○			
	保育実習ⅠB(施設)			○			2	○			
	保育実習指導Ⅱ		○				1	○			
	保育実習Ⅱ			○			2	○			
	保育実習指導Ⅲ		○				1	○			
	保育実習Ⅲ			○			2	○			
	保育の表現技術(音楽Ⅲ)		○				1	○			
	保育の表現技術(音楽Ⅳ)		○				1	○			
	保育技術演習(音楽遊び)		○				1				○
	保育の表現技術(造形)		○				1	○			
	子ども文化研究		○				1				○
	自然体験活動		○				1	○			
	子どもの保健	○					2				○
	子どもの健康と安全		○				1				○
	子どもの食と栄養		○				2				○
	障害児保育Ⅰ		○		1			○			
	障害児保育Ⅱ		○		1						○
	子ども家庭支援論	○					2	○			
	社会的養護Ⅰ	○					2	○			
社会的養護Ⅱ		○				1				○	
手話		○				1				○	
子ども家庭福祉	○					2	○				
社会福祉	○					2				○	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任	
	子育て支援		○				1	○			
	子ども家庭支援の心理学	○					2			○	

(5) 学習の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等名	学科名	修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数		取得可能な学位及び専攻名称
				必修	選択	
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	2年	62単位	10単位	52単位	短期大学士(言語コミュニケーション)
大学	幼児教育学科	2年	62単位	35単位	27単位	短期大学士(教育学)

(6) 学習環境に関する情報

大学等名	学科	所在地	主な交通手段
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	長野県上伊那郡辰野町中山 72	JR 飯田線辰野駅下車 徒歩 25 分 / 同宮木駅 徒歩 15 分
	幼児教育学科		
<p>【キャンパスの概要】</p> <p>校地は緑に覆われた本物の自然環境にめぐまれたキャンパスです。学生が通常通学に使う部分については安全面に配慮し、他の部分については、豊かな自然環境を可能な限り活かし、この環境下において教員の指導のもとに安全に自然体験活動など自然環境を有効に活用した授業・課外活動がより一層展開できるよう検討が加えられています。</p> <p>校舎についてはすべてのものが耐震基準を満たした構造であり、アスベストについても問題はありません。</p> <p>教室の80%には電子黒板システムが設置されており、授業に活用されています。また本学の校舎は体育館を含めすべての建物がつながっており、一度校舎内に入れば教室移動に雨風の心配はない作りになっており、体育館もそのような一角にあり使い勝手は良好です。</p> <p>学内には250名を収容できる学生食堂、学生ホール、学生玄関ホールなどがあり、テーブルや椅子、ベンチ、自販機等が用意され休息所として利用されています。</p> <p>また、キャンパスの中に「茶室」「礼法室」が別棟で建てられており、心の落ち着く空間となっています。主に茶道部、津軽三味線部などクラブの練習に使われていますが、ゼミなどで利用することも可能です。</p>			

信州豊南短期大学	<p>【課外活動の状況】</p> <p>令和元年度時点で、本学の公認クラブは、文化系 14 団体（前年度同数）、体育系 5 団体（前年度から 1 団体増）の計 19 団体が活動しています。すべての団体の顧問は専任の教職員が担当することになっています。津軽三味線部は、地域の行事、イベントに参加し地域での活躍、認知度も高いです。また、書道部は大学書道展、日本で最も大きな書道展である毎日書道展などに数多くの学生が入賞し、団体表彰を受けており、「長野県現代書藝展」においても毎年多くの学生が入賞し、特選や長野県知事賞など大活躍しています。</p> <p>活動資金は学生会のクラブ費で賄っており、年間の予算計画に基づき活動しています。配分は毎年、学生会と各クラブ代表との間で行われる 4 月の新年度予算折衝を経て、5 月上旬の学生会総会で決定されます。学生会は執行委員長をはじめとする 19 名の執行委員で構成されています。事業計画・実施予算計画、学生会総会、スポーツ大会、学生会役員選挙、全国私立短期大学体育大会、長野県私立短期大学体育大会、学園祭、バスハイク、海外研修旅行、決算等各種の行事を学生部との協議を経て、学校側と話し合いながら運営に当たっています。</p>
----------	---

(7) 学生納付金に関する情報

大学名等	学科名	入学料		授業料		その他徴収費用	
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
信州豊南短期大学	言語コミュニケーション学科	200,000 円	入学手続時	760,000 円	4 月、9 月末	210,000 円	4 月、9 月末
	幼児教育学科	200,000 円	入学手続時	760,000 円	4 月、9 月末	250,000 円	4 月、9 月末

(8) 学生支援と奨学金に関する情報

【学生支援組織】

項目	組織名	機能
就職等進路支援	進路指導委員会・キャリア支援室	入学時から進路決定に至るまでの時々の状況において進路希望調査、履歴書等の書き方、面接等、外部有識者・企業関係者・卒業生等による講演会の実施などを通じ進路指導及びその支援を行ないます。
履修支援	教務委員会・教務学生課	前期、後期のガイダンス、フレッシュヤーズキャンプ等における履修指導相談、ゼミ担当者による面談等に加え、学生個々の希望と一体となった円滑な履修指導を行ないます。
生活支援（住居・アルバイト等）	学生部・総務課・教務学生課	寮、アパート等の紹介およびアルバイト等の紹介、また学生寮における生活面での指導助言を行ないます。
保健・メンタルヘルス	学生相談室・医務室	両学科の心理学担当教員および医務室勤務の担当者らで構成する学生相談室において心のケアを実施。けが病気等については医務室勤務の担当者が対応します。

【信州豊南短期大学の独自奨学金制度】

種 類	要 件	申込方法
第1種奨学生	入学試験で選考。高校の評定平均値 3.5 以上の者で奨学生入試における合格者に授業料の全額または半額を免除	入学試験において出願。
第2種奨学生	1年次の学業成績、人物、出席状況、大学行事への参加等を考慮し、「奨学生選考基準」により選考。	成績等により選考されることから申込は不要。
第3種奨学生	学業・人物とも優秀な学生で、かつ経済的理由により、就学が困難であると認定された者に奨学金（授業料半額相当を上限とする）を給付。	第3種奨学生願書に所得証明等の必要書類を添付して申込。 （一部は入学試験時に出願、一部は入学後必要に応じ応募）

III 管理運営の概要

【ガバナンス】

学校法人の重要な意思決定は理事会で行われています。当該年度の予算、決算、学長の任免、専任教員の任免、理事会等の招集運営、その他法人運営上重要な事項はすべて理事会で決定されています。法人（理事会）を代表する理事長は当該理事会及び評議員会等学園の重要会議においてリーダーシップを発揮し、会議の円滑な運営を行っています。

また、理事会での意思決定の前に教学側（短期大学側）と常任理事等との間で十分な協議を経ることで円滑な運営が可能となっています。

短期大学の運営は、理事会等の意向を受け学長を中心に業務の執行を行っています。学校教育法の改正に伴い、学長の権限や教授会規程その他の見直しにより、審議機関としての教授会のあり方などを教授会等で説明し、教授会等の意見を求め学長が決定することを改めて確認し、運営にあたっています。

理事会、評議員会、短期大学の運営状況については監事はその状況を監査することとしています。

【自己点検評価】

平成 30 年 3 月 9 日付で第三者評価機関から適格認定を受けました。引き続き学校全体で自己点検評価に取り組み、よりよい短期大学運営に向けてその結果を活かしていきたいと考えています。

自己点検評価の結果、令和元年度は科目ごとの到達目標（学習成果）、科目間の連携についても再確認を行った。単位の実質化を図る意味でも準備学習が重要であることを踏まえ、シラバスの改訂にあたり各授業科目における授業計画ごとに準備学習の内容と目安の時間を示すことにした。また授業等を通じて身に付けるべき能力と成績評価の関係もシラバスに明示するとともに、ガイダンス等のいて十分に学生に周知を図ることを確認した。

【情報公開】

信州豊南短期大学のホームページにおいて以下の項目で情報公開を行っています。

●教育研究上の基本的な情報

- ・学科の名称及び教育研究上の目的

- ・専任教員数、各教員が有する学位及び業績
- ・校地、校舎、施設その他の学生教育環境
- ・授業料その他大学が徴収する費用
- 修学上の情報等
 - ・入学者に関する受け入れ方針、入学者数等
 - ・授業科目、授業の方法及び年間授業計画
 - ・学習の成果に係る評価及び卒業認定基準
 - ・学生の修学、進路選択及び心身の健康に係る支援
 - ・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
- 財務の情報
 - ・財産目録 ・貸借対照表 ・資金収支計算書 ・消費収支計算書
 - ・事業報告書 ・監事の監査報告書

【施設設備の整備】

令和元年度は Wi-Fi 設備の拡大、図書館サーバーの更新、映像設備の導入などを実施した。

(4) 上記以外の特徴ある取り組みの概要

①教学マネジメント会議を設置

学長のもとに、大学がその教育目的を達成するために管理運営を行う組織として、教学マネジメント会議設置。令和元年度は、学生が「何を学び、身に付けることができたのか」という点に着目し、学位を与える課程全体としてのカリキュラム全体の構成について学習会を繰り返して行い、その結果を教務委員会等に伝達し、具体的なシラバスの改正やカリキュラムマップ等の再確認につなげて行った。また、学生の学習時間を把握するための調査を実施し、その結果を教授会に発表するとともに、学生に資料として配布した。これらを受けて準備学習の在り方についての検討を行った。また学習成果の可視化に向けて、いくつかの方法で実施してきたが再度検討していくこととした。

②国際交流の概要

言語コミュニケーション学科ではニュージーランド・クライストチャーチのカンタベリー大学（交流協定締結時はクライストチャーチ教育大学）と平成 5 年 5 月に交流協定を締結し、平成 6 年 2 月に第 1 回の留学生 14 名が同大学に留学、令和 2 年 4 月までに 271 名の学生が留学を経験しています。1 セメスターの長期留学、留学しても 2 年間で卒業が可能で、留学前と後の TOEIC を活用した自己診断、現地教員との連携、ホームステイによる英語漬けの環境構築といった特色を有する留学制度であり、現地で修得した 15 単位はすべて卒業要件単位として認定。この留学制度の発足をきっかけに、本学が間を取り持ち、地元辰野町がニュージーランドのワイトモ地区と交流を行っております。

③社会貢献・連携活動の概要

辰野町沢底区と「地域連携協定」を締結し、以後学生及び教員の派遣、また本学の授業を沢底区との協力のもとに実施しています。また、「伝統文化」を開放科目として開講。多くの地域の方が受講しました。

社会人受け入れに積極的に取り組み、科目等履修生の説明会を開催し、短期大学の持つ情報を地域みなさんに提供するとともに、4名の社会人の皆さんが科目等履修生として本学で学んだ。

また、幼児教育学科を中心に、地域住民に対しピアノの無料講座を開講し、18名の方が年間を通して受講しました。

Ⅲ. 財務の概要

(1) 資金収支計算書

「資金収支計算書」は、毎会計年度、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

令和2年度末の翌年度繰越支払資金は190百万円となり、前年比40百万円減少しております。

資金収支計算書

(単位 千円)

収入の部				
科 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比
学生生徒等納付金収入	689,660	707,948	669,757	▲38,191
手数料収入	26,400	24,356	25,416	1,060
寄付金収入	470	1,154	2,990	1,836
補助金収入	498,211	491,723	458,716	▲33,007
資産売却収入	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	23,543	14,429	11,229	▲3,200
受取利息・配当金収入	458	458	431	▲27
雑収入	104,632	88,057	36,315	▲51,742
借入金等収入	250	2,000	750	▲1,250
前受金収入	133,535	117,210	137,340	20,130
その他の収入	2,490,284	2,614,026	2,556,767	▲57,259
資金収入調整勘定	▲155,369	▲438,332	▲216,829	221,503
前年度繰越支払資金	336,809	312,155	230,995	▲81,160
収入の部合計	4,148,887	3,935,186	3,913,879	▲231,307
支出の部				
科 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比
人件費支出	979,463	934,599	850,536	▲84,063
教育研究経費支出	137,887	188,953	202,000	13,047
管理経費支出	107,331	91,692	91,922	230
借入金等利息支出	6,989	4,520	3,768	▲752
借入金等返済支出	1,200	28,627	54,804	26,177
施設関係支出	124,519	55,901	13,003	▲42,898

設備関係支出	13,092	36,274	26,239	▲10,035
資産運用支出	1,696,031	1,696,031	1,852,500	156,469
その他の支出	847,918	814,253	737,989	▲76,264
資金支出調整勘定	▲77,701	▲146,661	▲109,359	37,302
翌年度繰越支払資金	312,155	230,995	190,473	▲40,522
支出の部合計	4,148,887	3,935,186	3,913,879	▲21,307

(2) 事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」は、毎会計年度、当該会計年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、当該会計年度において基本金に組み入れる額を控除した当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするものです。

教育活動収支については、教育活動収入が 1,206 百万円、教育活動支出が 1,287 百万円となり、教育活動収支差額が 81 百万円の支出超過となっております。

教育活動外収支差額が 3 百万円の支出超過、特別収支差額が 2 百万円の収入超過となっております。基本金組入前当年度収支差額は 82 百万円の支出超過となっております。

これに第 1 号基本金 47 百万円を組入れ、当年度収支差額は 130 百万円の支出超となり、前年度繰越収支差額が 1,848 百万円の支出超過であることから、翌年度繰越収支差額は 1,978 百万円の支出超過となっております。

事業活動収支計算書

(単位 千円)

	科目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比
		学生生徒等納付金	689,660	707,948	669,757
手数料	26,400	24,356	25,416	1,060	
寄付金	470	1,154	2,990	1,836	
経常費等補助金	498,211	491,723	458,716	▲33,007	
付随事業収入	23,543	14,429	11,229	▲3,200	
雑収入	104,215	100,880	38,181	▲62,699	
教育活動収入 計		1,342,502	1,340,491	1,206,290	▲134,201

教育活動収支	事業活動支出の部	科 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比	
		人件費	979,988	929,006	850,536	▲78,470	
		教育研究経費	262,889	310,710	326,937	16,227	
		管理経費	115,808	100,362	101,346	984	
		徴収不能額等	11,880	22,994	8,951	▲14,043	
		教育活動支出 計	1,370,566	1,363,072	1,287,771	▲75,301	
教育活動収支差額			▲28,064	▲22,581	▲81,480	▲58,899	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比	
		受取利息・配当金	458	458	431	▲27	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	
		教育活動外収入 計	458	458	431	▲27	
	事業活動支出の部	科 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比	
		借入金等利息	6,989	4,520	3,768	▲752	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	
		教育活動外支出 計	6,989	4,520	3,768	▲752	
	教育活動外収支差額			▲6,531	▲4,061	▲3,336	725
	経常収支差額			▲34,595	▲26,642	▲84,816	▲58,174
特別収支	事業活動収入の部	科 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比	
		資産売却差額	0	0	0	0	
		その他の特別収入	2,026	353	2,698	▲2,345	
		特別収入 計	2,026	353	2,698	▲2,345	
	事業活動支出の部	科 目	平成 28 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比	
		資産処分差額	0	0	0	0	
		その他の特別支出	140	0	0	0	
		特別支出 計	140	0	0	0	
特別収支差額			1,886	352	2,698	▲2,346	

基本金組入前当年度収支差額	▲32,709	▲26,290	▲82,118	▲55,828
基本金組入額合計	▲146,329	▲76,248	▲47,961	28,287
当年度収支差額	▲179,039	▲102,538	▲130,079	▲27,541
前年度繰越収支差額	▲1,566,710	▲1,745,750	▲1,848,288	▲102,538
基本金取崩額	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	▲1,745,750	▲1,848,288	▲1,978,368	▲130,080

(3) 貸借対照表

「貸借対照表」は、年度末における財政状態を表示したもので、資産・負債・純資産を表示しています。

資産の部については、8,945百万円となり、対前年比191百万円の減少となっています。これは、固定資産の減少95百万円と流動資産の減少95百万円が要因です。

負債の部については、1,340百万円となり、対前年比109百万円の減少となっています。これは、固定負債の減少64百万円と流動負債の減少45百万円が要因です。

純資産の部については、7,604百万円となり、対前年比82百万円の減少となっています。これは、第1号基本金の増加47百万円と翌年度繰越収支差額の減少130百万円が要因です。

貸借対照表

(単位 千円)

資産の部				
科 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比
固定資産	8,845,678	8,808,335	8,712,586	▲95,749
有形固定資産	6,770,331	6,732,301	6,636,924	▲95,377
特定資産	1,852,383	1,852,414	1,852,500	86
その他の固定資産	222,962	223,618	223,161	▲457
流動資産	346,755	328,477	232,952	▲95,525
資産の部合計	9,192,433	9,136,812	8,945,538	▲191,274

負債の部				
科 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比
固定負債	1,188,937	1,120,113	1,056,045	▲64,068
流動負債	290,169	329,663	284,576	▲45,087
負債の部合計	1,479,107	1,449,776	1,340,621	▲109,155
基本金の部				
科 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比
基本金	9,459,076	9,535,324	9,583,286	47,962
第1号基本金	9,365,403	9,441,652	9,489,613	47,961
第4号基本金	93,672	93,672	93,672	0
繰越収支差額	▲1,745,750	▲1,848,288	▲1,978,368	▲130,080
純資産の部合計	7,713,326	7,687,036	7,604,917	▲82,119
負債及び純資産の部合計	9,192,433	9,136,812	8,945,538	▲191,274

IV. 対処すべき課題

本学校法人豊南学園を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いています。当学園全体での最大の課題は財務内容の健全性です。その健全性を実現するには、学生・生徒等の増加が必須です。実現させるには、①学生・生徒等から支持され質の高い教育、②短大においては就職実績の向上と就職内容の更なる充実、③高校では難関といわれる大学への進学実績を向上させると同時に、クラブ活動の推進、④幼稚園では、地元ニーズに応える保育の提供実現が必要と考えます。

(1) 信州豊南短期大学

幼児教育学科の新カリキュラムへの移行、進路支援等学生ニーズに応えられる体制を構築すべく取り組んできが、令和2年度募集においては言語コミュニケーション学科の入学者が前年度に比べて減少した。

言語コミュニケーション学科のオープンキャンパス参加者は受験対象者である3年生が減少し、次の年の受験者となる2年生が増加した。結果、令和2年度の入学者が減少することとなった。幼児教育学科ではオープンキャンパス参加者のうち受験対象者である3年生が増加し、2年生は前年同数となった。結果、前年に比べて受験者、入学者とも増加した。社会人の方が2名幼児教育学科に入学したのも本年度の特徴的なところである。

令和2年度学生募集では入試制度に大きな変更はなかったが、国の新たな修学支援制度スタートの年で給付型の奨学金と授業料減免を同時に受けることが可能になったことから、これまで経済的に進学が難しい地域への思いをこの制度が後押ししたような状況になったのかもしれないと考えている。いずれにしても受験生選ばれる学校にならなければならないことから、カリキュラム、授業内容等様々な面の魅力アップに努めていくことが急務である。そのうえで長野県内、特に中信地区

の募集強化を検討していきたい。

一方で幼児教育学科は長野県内において後発ではあったが、卒業生の県内保育所等における活躍もあり、ようやく信州豊南短期大学に幼児教育学科が設置されていることが浸透しつつあるのでこの機を逃さずに募集活動を行いたい。

令和2年度募集の反省点を踏まえて令和3年度募集を検討してきたが、コロナウイルスの問題が発生し、前年度の反省の上に立ってというだけでは済まない、あらたな活動を検討しなければならない状況に置かれている。

コロナ禍の中で授業を運営していただけてもこれまでにない大変さが付きまとっているが、加えて遅れている学生募集、広報活動面では対応が極めて難しい状態となっている。これまでの方法の見直しが迫られており、間もなく本格的に始まるオープンキャンパス等の告知、実施にあたっての感染防止対策の徹底、新たな入試方法の導入、そしてその周知に全力を挙げて逆境の中ではあるが前年を上回る成果を上げるべく努力していきたいと考えている。

(2) 豊南高等学校

従来から種々の改革に取り組んでいますが、目標にはまだ届いておりません。進学実績の向上、クラブ活動の活性化を更に推進していく必要があります。

財務面では、①収支の均衡を図ることで経営基盤を安定させる。②教育内容の充実を図る。以上2つを目的に財務内容の見直しに着手してまいりました。平成29年度入学生が男子218名（前年比+39名）、女子164名（同+55名）、合計382名（同+94名）となり回復傾向にあります。しかしながら、より教育内容の充実を図り、成果に結びつけ、安定的に生徒数を確保するために具体的な方策を講じ、実行しなければならないと考えます。

生徒の学習習慣を確立、授業内容の定着を図るための具体策として、リソー教育グループ、スクールトーマスとの提携を模索し、生徒の放課後学習支援システムを作り上げようと思えます。部活動参加者も活動終了後1時間～2時間、学校内で学習を完結して下校するという制度です。スクールトーマスとの提携により、教員の働き方改革の推進、労働時間の短縮の方策の具体化にもつながり、更に生徒の文武両道の推進も図れると考えています。

併せて、21世紀の社会で活躍できる人材を育成するため、授業内容・教授方法の見直し等、新学習指導要領に則した教育内容の検討に入らなければなりません。それに伴うICT化を今後必要に応じて実施していきます。

また、第二校舎・体育館の建て替えは、生徒へのより良い教育環境の提供の観点から、平成26年12月の新築工事着工から2年超の年月を経て、平成28年2月末に新校舎が引渡しとなり、同年3月の卒業式を新校舎で行いました。平成30年度に向けて、志木総合グラウンドの管理棟・グラウンドの整備を実施し、使用クラブの活動の充実を図りたいと計画しています。

3) 豊南幼稚園

平成2年度より、21年間にわたって園費を据え置いて参りました。経営基盤を安定、教育内容の一層の充実を目的に、平成24年度入園者から保育料等の改定を行いました。また平成28年度入園生から新校舎利用による教育環境の充実から、保育料等に加え冷暖房費、施設維持費を設けました。また、3歳入園児の安定的な確保の為、例年就学前保育として募集している2歳児「ひよこ組」の募集人員を、増加しての対応が、次年度の3歳入園児の確保に有効であるとの結論から、平成30年度より16名から20名に増加し、3歳児入園者の安定確保につながります。